



【理念】

「愛し愛される病院」

【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ごあいさつ

暑い日が続き食中毒など季節性の感染症がまだまだ心配な季節となりました。

H28年度は、患者さまにインフルエンザの発症がない年となりました。毎年、季節性の感染症が流行するころになると手洗いやマスクの着用、咳エチケットなどさまざまな対策が必要となりますが、当院での感染対策が功を奏したのか、発症0との結果に至りました。

回復期リハビリテーション病棟の感染対策のポイントは、①数か月のスパンで患者様が入院する（長期暴露の可能性がある）、②共同で使用する物品が多い（感染しやすい環境）、③患者様が移動する（患者様が感染仲介者となる）、④抵抗力の弱い患者様が多い（高齢者、手術後の患者様）ことがあげられます。

この4つの特徴をポイントにH29年度も季節性の感染症0を目標に感染対策を徹底していきたいと思っております。

地域訪問 2年目を迎えて



地域連携室では5年ほど前から相談員(医療ソーシャルワーカー)が紹介元医療機関を訪問しています。2年前からこの広報誌を持参し当院のトピックスを伝えています。更に昨年度から地域の診療所や居宅介護支援事業所等を訪問先に加え、約40か所と2倍以上に増えたため連携事務員も総動員で訪問しています。院内業務との両立に大忙しですが“エイッ”とばかり区切りをつけて地域へ飛び出します。訪問から戻ると、どんな話題が出たか、相手先の新情報など連携室内で語り合い情報共有するのが楽しみです。

特に診療所の先生やケアマネジャーとの会話から地域ニーズや現状を知ることができます。例えば、今年1月号で『栄養と摂食・嚥下』をテーマに取り上げたところ、「最近むせるようになった」という相談受けることが多い、訪問リハビリで嚥下訓練希望あるが言語聴覚士が少ない、外来で嚥下評価をしてもらえないか、などのご意見を承りました。また、当院退院患者さまについて、“お元気ですよ”の一言が何より嬉しい知らせです。“いろいろありますが”と前置きが付くこともあり在宅ならではの重みを感じ頭の下がる思いです。

今後も定期的な訪問を継続し、より良い連携が結べるよう努力して参ります。



▲(写真)中里医院訪問時の様子

地域連携室 主任 ひろかわ さとみ
廣川 里美 (医療ソーシャルワーカー)

在宅に向けての栄養管理

当院の入院患者さまの特徴として疾患が特定されるため、特に脳血管疾患患者さまにおいて経口摂取できず、栄養や水分を経管栄養でとって当院へ転院してこられる方がいらっしゃいます。

H28年度は、経管栄養を挿入し入院された患者さまは、71名でした。そのうち3食経口摂取になられた方は24名でした。経口摂取に至らなかった患者さまは、在宅での経管栄養の継続が必要となりますが、入院中にしていることをそのまま在宅で続けていけないことのほうが多いです。

在宅での経管栄養にあたり、考慮しなければならないことの中に①手技の指導②物品の準備③栄養剤の選択があります。手技の指導は入院中に介護される方に來ていただきチェックリスト等を使用し、できるようにしていきます。物品・栄養剤はコスト面を考慮し選択する必要があります。栄養剤は、在宅では医薬品で処方される栄養剤を使用したほうが患者さまの経済的負担が少なくなることが多いです。そのため当院では入院中に在宅で使用される栄養剤を使用し、検査データや、消化器症状(特に下痢の有無)を確認し在宅につなげています。その情報はサマリーで在宅支援していただく方へ情報提供しています。

在宅で支援していただく方たちと情報交換を行い患者さまの生活に視点を置き、その人らしく生活できることを念頭に地域連携がはかれることを願ってやみません。



そのだ のりみ
看護部長 園田 祝美

認知症予防の健康教室開催♪

当院の地域支援事業

厚生労働省は 2025 年を目処に、地域包括ケアシステムの構築を推進しています。これは病気や怪我などで生活に不自由が生じた場合でも、住まい・医療・介護・予防・生活支援を地域全体で行い、住み慣れた地域に住み続けようという地域の包括的な支援・サービス提供体制です。当院リハビリテーション科においてもこの取り組みに参画すべく、2013 年から西荻窪周辺の地域包括支援センターと協力し、転倒予防などの健康教室を行っています。先日は当院に地域住民の方をお招きし、認知症予防をテーマに健康教室を開催しました。その内容は、認知症の方が安心して生活が出来るための関わり方や、認知症予防に効果があるとされる、頭と身体を同時に動かすコグニサイズ*という運動、リハビリ専門職との相談会を行いました。

今後はますます地域に根付いた病院となるべく、このような活動を続けていきます。11 月にも当院で健康教室を開催します。詳細は当院 HP などをご確認ください。

リハビリテーション科 主任 ^{よこほり}横堀 ^{まさと}将人 (理学療法士)



◀▲ (写真) コグニサイズの様子

※コグニサイズ=国立長寿健康センターが開発した運動と認知課題(計算やしりとり)を組み合わせた、認知症予防を目的とした取り組みの総称を表した造語

地域包括ケアシステムにおける当院の役割

『健康教室』『家族介護教室』で積極的に地域連携!!



7/21 上荻元気プロジェクト

8/11 上荻元気プロジェクト

8/31 善福寺はつらつ道場 (転倒予防)

今後の取組予定 9月 上荻元気プロジェクト

善福寺はつらつ道場 (転倒予防)

脳トレ(ケア24上荻)

10月 善福寺はつらつ道場 (嚙下)

11月 善福寺はつらつ道場 (わがまち一番体操)



◆ 平成29年5月～8月入院患者数と紹介元医療機関

5月から8月の4か月間における新入院患者は140名（うち近隣診療所より紹介1名）

紹介元医療機関は以下の通りです。（順不同、敬称略）

青梅市立総合病院、荻窪病院、河北総合病院、吉祥寺南病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、黒目川診療所、慶應義塾大学病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、小林脳神経外科病院（長野）、佐々総合病院、三楽病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、田中脳神経外科病院、多摩総合医療センター、千葉ろうさい病院、調布病院、市立角館総合病院（秋田）、東京医科大学病院、東京都済生会中央病院、東邦大学医療センター大橋病院、東京衛生病院、東京都立広尾病院、新渡戸記念中野総合病院、日本医科大学附属病院、練馬総合病院、三宿病院、練馬光が丘病院、防衛医科大学校病院、武蔵野赤十字病院、武蔵野陽和会病院、目白病院、山中病院、横島病院、横浜労災病院、ほか2カ所

以上、38カ所 ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	平成29年6月	平成29年7月	平成29年8月
ベッド稼働率	97.0%	94.5%	98.7%
入院延べ患者数	2,978人	3,003人	3,092人

在宅復帰率（直近3ヶ月）…87.5%

重症患者割合（直近6ヶ月）…39.2%

重症患者回復病棟改善割合（直近6ヶ月）…49.3%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分



医療法人社団 瑞心会

杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

編集後記

リハビリテーション科のワーキンググループによる地域包括支援センター等と協力した健康教室の開催が盛り上がりを見せております（記事参照）。現在、年2回開催で計画されており、次回は11月11日（土）に「転倒予防」をテーマに開催予定。前後の広報活動、編集委員中心にバッチリやっております！ご期待ください。

（編集委員）

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門 脇 親 房
- 編集 集：総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>
Facebookでも最新情報を配信中♪

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)

